



生みの親といっしょに  
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして  
わたしを 見つめて  
わたしを 聞いて  
わたしを 呼んで

〔 人の成り立ちの歩み・”欲求・実存・環境・人間関係” 〕  
～ あんな人になりたい・必要とされる人でいたい・良い人たちとたくさん会いたい ～

私は”人の成り立ちの歩みのはじめ”を下記のように捉えて見えています。

1. 誕生: ヒトの生命を授けられた”喜びと敬意と感謝”
2. 五感: 天意によって授けられた機能を活かす
3. 六識: 人がヒトとして成るために五識で得たものを六識(心)で見る
4. やりとり: おおらかなやりとり・うけこたえ・かかわり( Serve & Return )
5. 受容: あらゆる存在を受けとめてあげること
6. 記憶: ”触れる・触る”などの経験・体験をたくさんすること

私たちは改めて”人の成り立ちの歩みのはじめ”を見つめ直した時、  
50有余年前からこの日本の乳幼児の保育界・幼児教育界・人間教育界において始めて  
「五感と六識を刺激する0歳からの人間教育」に取り組んできたのです。

そしてこれが「人間学と人間科学に基づく人間教育」になりました。

私たち童心会は本当に長い間、「ヒト(ホモ・サピエンス)・賢い人」は  
未成熟なまま生命を授けられ、他の生物のように”二足歩行を獲得”するまでの約400日間を  
どのように過ごしているのかを観察して分かってきたことがありました。

〔 五感の刺激 〕

見て 倅い	観せて 学び
聞いて 考え	聴かせて 習う
触れて 知って	触って 記憶する
風に 香りを嗅ぎ	五味・五色・五感で 四季を味わう



笑ったかす一番	だっこされたかす一番	やさしくされたかす一番
遊んだかす一番	でかけたかす一番	チャレンジしたかす一番

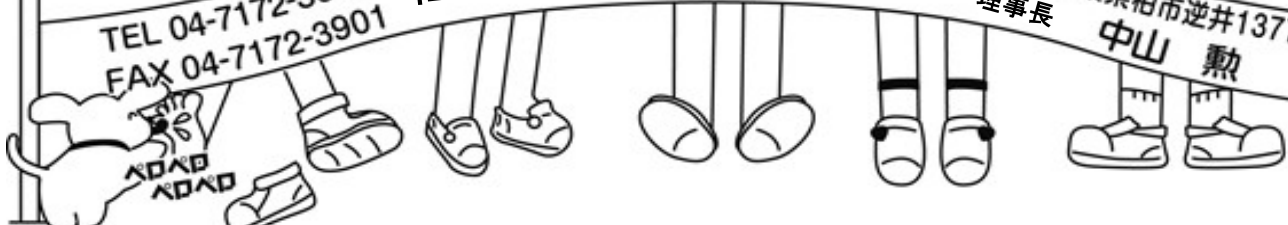


E-mail [doushinkai@doushinkai.jp](mailto:doushinkai@doushinkai.jp) URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939  
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1  
理事長 中山 勲



〔 六識の刺激 〕

。五識(眼識・耳識・鼻識・舌識・身識)を通して認識する  
。六識(意識)を通して、心で見ること(第六感・直観(直知)・直感・心眼)  
これらの”五感と六識”を通して、”人がヒトとして成り立つ”ための純粋で健康な欲求が生まれるのです。  
そしてそれは実存(自分は必要とされている)に変わり、  
”環境と人間関係”との良質な関わりを育てながら”ヒト”として生まれていくのです。  
そして私はこの言葉を次のようにやさしく解釈しました。

- 1) 欲 求 (あのようによさしい人になりたい。願いと祈り)
- 2) 実 存 (みんなに必要とされる人でいたい。自己実現・承認)
- 3) 環 境 (偉大なる自然を恐れ敬う心を大切に生きていきたい。八百万の神)
- 4) 人間関係 (人とヒトとの紡ぎあい・良い人たちに囲まれて過ごしていきたい。自分を大切にできる人)

このような人たちを創ることを私たち(社福)童心会は願い祈り続け、  
毎日毎日の生活を共にここで暮らしているのです。

「見る・観せる・ときめき・あこがれ、はげまし・称赞、できる・できた、やりとり・うけこたえ・かかわり、感動・歓喜」  
子ども社会の”ガキ大将”になれるということは、このような体験・経験を毎日味あわせてあげることなのです。

このような原初体験を通して昔の子どもたちは、創造性が生まれ、たくましく育てられながら  
”自分を創る・人を創る・社会を創る”という立派な子ども文化が生まれていたのです。  
考えてみますと今の私の思想の基盤になり財産になっているようです。

改めて私の生き方をふり返って見た時、  
”ガキ大将”だった子ども時代の本当にたくさんの失敗体験・成功体験が  
この今の私に”智慧(実人生を生き抜く力)”を与えてくれたのだと思っています。  
それが意識(心)で見ること”心眼”だったのです。

東洋思想では「直観知(直知)・直感知・心眼・第六感」などと言います。  
これらは今の新しい科学的Evidence1においても実証されていることに私は驚きをかかずできませんでした。  
それは生後2か月頃から9か月頃までのnon-verbal communication時代に  
数多くの関係知を結んだのが問われるのです。  
そこから生まれた言葉が”霊性言語”になると私は解釈しています。  
そしてそれが、これからのAI時代に生き残るための言語なのではないかと確信しています。

改めてふり返って見ますと、本当に本当に永い間、”大人社会中心の文化”だった時代は、  
乳幼児時代の子もたちを蔑(ないがし)ろにしてきました。  
私たち(童心会)が昔から取り組んできたServe & Return(相互に応答し続けるプロセス)を  
保育園という”街の小さなコミュニティ”でも大切にしていますので、  
皆さまのご家庭でも実践し、ご協力していただきたいのです。  
特に近年の発達科学が提示していることは、  
昔から言われている乳幼児が発信しているサイン(視線・表情・声・身振り・微笑み)などに対して  
養育者が適切なタイミングで応答しあうことを大切にしています。(Serve & Return)  
これらのことをひと言でいうと「人は応答されることで生まれ、応答することで人になる」と言うのです。  
どうぞ皆さま、お家で次の言葉を忘れないでください。魔法の言葉になります。

- 1) おおらかな やりとり      2) しなやかな うけこたえ      3) たおやかな かかわり

今日もまた一日一生を念じながら  
すべての仲間たちの Well-being!! ”幸せになろうね! 幸せになろうよ!”と  
祈り願い続けていくつもりです。どうぞいつまでもお幸せに!!

令和8年 5月 吉日  
社会福祉法人 童心会  
理事長 中山 勲